

# 指先で健康状態測定

## 事故防止&意識向上

### パスコロジ

パスコ・ロジスティクス(野仲進社長、神奈川県海老名市)は、指先で心拍数やストレス、血管の状態を測定できる「スマート事故防止システム」を導入し、6月からドライバーに展開している。健康起因事故防止と社員の健康意識向上を図るのが目的で、強制はしないが2022年度中には全社員に測定に協力してもらえる状況を目指す。

(吉田英行)

## 病気になるらない・させない工夫

左手人差し指をスマートパルスと呼ばれる装置に差し込むだけで、1分ほどで心拍数、ストレス、血管健康状態を測定。スマートフォンにアプリをダウンロードすると、測定結果がスマホ上に表示される。毎日、出発時または帰庫時に測定。データの保存・蓄積、プリントアウト、一括管理なども行える。

日本健康経営(松本大成・加藤弘幸両代表取締役、東京都中央区)が提供するシステムで、協力運送会社

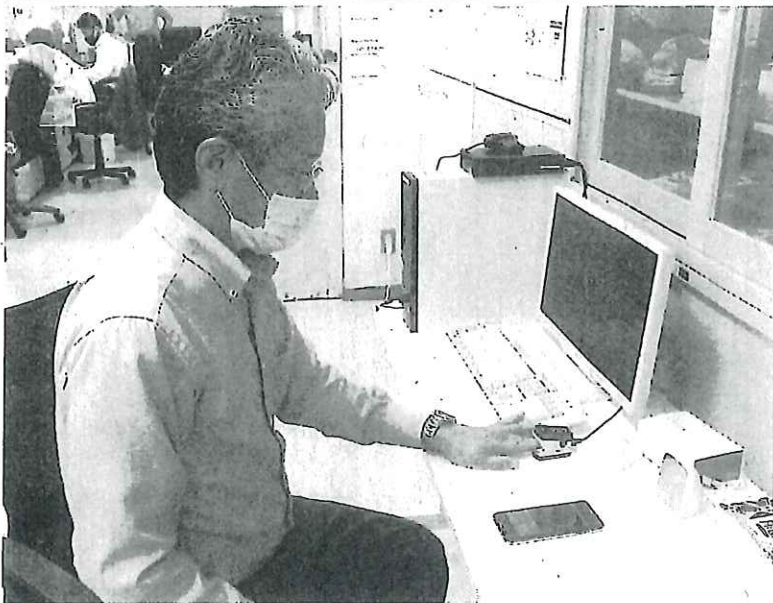
が導入しているのを参考に取り入れた。

パスコロジの水乃上浩樹(管理本部総務担当部長)は「貨物自動車運送事業法17条に『事業者は運転者が疾病により安全な運転ができない恐れがある状態で運転することを防ぐために、必要な医学的知見に基づく措置を講じなければならぬ』との規定がある」と指摘。

続けて、「健康状態把握の怠慢で事故を起こし、行政処分を受け倒産した例も



ある。ドライブレコーダーやデジタルタコグラフなどを活用した運行管理はしているが、これに加えて健康経営の義務を果たさないと経営にも影響する」と話す。スマートパルスは3月に本社にまず1台導入し、続



左手人差し指を装置に差し込み、1分ほどで測定可能

いて全4カ所の営業所にも4月までに設置済みで、管理職から測定をスタート。6月からはドライバーにも展開を始めた。強制はしないものの、社員に理解を促し、年度内には全社員33

0人に行えるだけ協力してもらえようとする。今後、管理者を選任して部署ごと、年齢別などのデータ分析をすることも計画している。水乃上氏は「社員の健康増進による事故防止はCSR(企業の社会的責任)の一環。病気を見付けるのではなく、病気になるらない、させない工夫が必要。日々の健康管理で健康に関するリスク、高齢化に伴うリスクを少しでも減らしたい」と話している。